

第6回国際成人教育会議 (CONFINTEA)

のための国内「草の根会議」第1回記録 (荒井容子メモ)

開催日時 2008年9月13日(土) 午後2時~5時

開催場所 文部科学省ビル 6階1会議室

議題(ゴチック)にそくして 記録(青) 荒井の補足提案(赤)

1 参加者自己紹介 11名

緊急のご連絡にも関わらず、呼びかけ団体関係から9名、その他2名の方が参加してくださいました(それぞれの所属はその一部のみご紹介しております)。

呼びかけ団体から

社会教育推進全国協議会・『月刊社会教育』編集委員会(荒井)、日本社会教育学会(常葉-布施、藤村、木全)日本公民館学会(谷)、全国社会教育職員養成研究連絡協議会(三輪)、シャンティ国際ボランティア会(三宅)、開発教育協会(湯本)、財団法人 ユネスコ・アジア文化センター(柴尾)

その他から

立田(国立教育政策研究所)、福田(ERIC 国際理解教育センター)、持丸(インターナショナル・コミュニティ・ネットワーク(ICN):外国人の子ども日本語学習支援など)

2 第6回国際成人教育会議に関する簡単な説明 - 「案内」をもとに -

国際成人教育会議の概要

- 1) 第6回国際成人教育会議開催準備過程の経過~最近の動向ま
 - ・ナショナルレポ - トの意味
 - ・リ - ジョン会議の位置ほか

説明の中で出された疑問、話題

国際成人教育会議(リ - ジョン会議)がユネスコのカテゴリ - に相当するということについて(荒井の案内修正に関する説明 - ユネスコ会議規則に触れた - に呼応して)

参加資格、CSO 組織が政府代表に入ることやナショナルレポ - ト作成過程に関することについての法的理解をめぐる齟齬などが話題になりました。

3 この「草の根会議」開催までの経過と課題

4 「案内」に書かれているこの会議の課題に即して

(1) 第6回国際成人教育会議を活かす方法について意見交換

- 1) 日本社会教育政策・実践の推進に活かす
- 2) 世界の成人教育の政策・実践の推進に活かす

たとえば、1)について

国際的合意事項に日本における社会教育の課題・期待すべき政策目標を盛り込む - 会議準備過程・当日討議を通じて、課題を、国内的にも、また国際的(他国の政策・実践事例、考え方と相互検討により)にも練っていきながら、盛り込んでいく。

(2) 日本のナショナル・レポ - トについての報告と検討

質問・意見交換 - 日本における社会教育の現状・課題について

立田氏より日本のナショナル・レポ - ト英訳前(日本語)最終文書と10月1日文科省による意見交換会開催についての書類の配布及び若干の説明

討議の中での確認・意見

- ・ すでにリ - ジョン会議までに間に合わせるために英訳作業に回されている。そこで大幅な書き換えは難しい。また、ナショナル・レポ - トは分量をあまり長くならないようにと限定されているため、十分書ききっていたいところもあるがこの点でも大幅な書き換え、追記は難しい。しかし、全く書き換えが不可能ということではないと思われる。
- ・ UILに提出後も、リ - ジョン会議後も、本会議までの間に、修正して際提出する可能性もある。
- ・ さらに、ナショナル・レポ - トに反映されない分析・意見については、リ - ジョン会議の討議の場や、リ - ジョン会議としての提案文書(本会議で提案される Framework for Action に反映されると考えられる)に活かすことができる。リ - ジョン会議に参加する人たちに、それぞれ参加する会議や、NGO 会議の中で、また政府代表への働きかけによって、日本の現状や課題を伝え、討議や最終まとめに活かされるよう、期待する。
- ・ 文科省により開催される意見交換会は時間が短いので、あらかじめ、ナショナル・レポ - トについての意見を、前日までに e メールで送付しておくといい(案内文面では団体ごとに集約して送付することが期待されている)。
- ・ 各団体で、このナショナル・レポ - トを回覧し、意見を求めるよう努めたい(PDF ファイルにして呼びかけ団体等に送付するのでそれを活用してもらおう。ホ - ムペ - ジにもアップする)(荒井担当)。
- ・ 文部科学省以外の省庁はこのレポ - ト作成にどの程度関わっているのか。草稿段階で回覧はされている。積極的に関わってもらうためには(活動分野によっては、実践活動・政府支援に他省庁が関わっているケースも多く、すぐれ実践や、また資金援助の問題など指摘しておくべき課題もある) CSO 関係でも、その分野をフォロー - しているところに意見を出すよう働きかけてはどうか。それぞれの団体を通じて、つながりの強い団体にナショナル・レポ - トを配布し、積極的に意見を求めましょう。
- ・ リ - ジョン会議に参加する方たちへ
提案に目標数値等、具体的な課題が入ると、政策推進の力になるので、是非、実現に努めてほしい。

Cf. 若干、個別記述についての意見交換もあり(日本語教育をめぐって) 具体的な文案(変更のための)を送付するといいい、ということになりました。

ナショナル・レポ - トの改善案については、具体的な箇所について、変更文案を、しかも簡潔に提案するといいい。英訳例をつけるとさらにいい、ということも話題になりました。

- (3) 第6回国際成人教育会議の準備過程・本会議・フォロー・アップを通じて、この課題がどのように再検討されるか・・・。

5 今後の「草の根会議」についての提案

(1) 継続の提案

- 1) リ・ジョン会議参加報告と国内課題の再検討
- 2) 本会議に向けての会合、国内課題の再検討
- 2) 会議に向けての会合
- 3) 本会議報告とフォロー・アップ作業 企画
- 4) フォロ・アップ作業
- ・・・

出された意見

- ・ 第5回国際成人教育会議のときには、3年間という時限をつけて、「未来のための教育の会」という組織を立ち上げたが、その後につながっていない。
- ・ 何か参加そして教訓にすべきことはないか・・・。

結論 活動を継続する。当面、次の活動へと展開しながら、その先を考えていく。

(2) 運営方法についての意見交換

- 1) 「呼びかけ団体」は申し出に応じて拡大していく。

「呼びかけ団体」をいわゆる社会教育関係だけに限定せず、広げる必要がある。「申し出に応じて」とはなっているが、社会教育関係以外の団体は、意識的に働きかけないと、関心をもって、「申し出」ることはないだろう。

それぞれの「呼びかけ団体」でつながりの深い団体に、積極的に参加を呼びかけてはどうか。まず国際成人教育会議の意義、その日本で活かすことができる可能性などを丁寧に説明して関心を喚起する必要がある。「呼びかけ団体」まで行かなくても、「草の根会議」に参加してもらうだけでも第一歩かと思われる。

また、社会教育・成人教育を主たる活動分野としていない団体にも、積極的に働きかけて、「草の根会議」にかかわってもらうよう努めたい。そうすることで、ナショナル・レポートをめぐる議論のところでも話題となった、文科省以外の省庁がかかわる、成人教育関連施策にも影響を与える可能性がみえてくるのではないか。この点で、労働団体、環境教育関係団体、図書館関係、博物館関係、市民活動情報関係ほか、声をかけたい団体がそれぞれあるということが話題になり、それぞれ積極的に働きかけていきましょう、ということになりました。

- 2) 「呼びかけ団体」による企画会議の中で、草の根会議の企画（日程・運営方法・会場）を練っていく。

- 3) その他

(4) この「草の根会議」への期待 意見交換

たとえば、

・ナショナル・レポ - トに盛り込めなかった課題を、シャド - ・レポ - トとして作成すること

- インド、フィリピンは準備中とのこと

- 他の国で市民社会組織も関ってナショナル・レポ - トをまとめた経験に学び

ながら

- 各地のリ - ジョン会議、テ - マ別会議、グロ - バルレポ - トの準備過程をに

らみながら、日本の課題を検討しながら

・日本の CSO(市民社会団体)としてレポ - トをぜひ、つくるといい。その場合シャド - ・レポ - トという名称ではなく、CSO レポ - トとするといい。

・会議に反映させるためには CSO レポ - トをつくるかどうか確定し、すぐにとりかかる必要がある。

・文科省主催意見交換会(10月1日)で出された意見でナショナル・レポ - トに書き込めなかったことなどについては CSO レポ - トに反映させるといい。

・CSO レポ - トに、ガイド・ラインの項目には十分描かれていない「国際協力」の項目を入れたい。

・CSO レポ - トはガイド・ラインに示された枠組みにとらわれなくていい。ガイド・ラインの項目にあって書き込めなかったものも、また項目になかったものも、またガイド・ラインの枠組み全体とは異なる観点でも、会議に反映させたい事項を書き込んでいってはどうか。

結論

・「草の根会議」として CSO レポ - トをまとめる。

・年内にまとめることを目標とし、年明け1月に UIL に送付する。

・次回の「草の根会議」では、リ - ジョン会議報告とともに、10月1日に寄せられた意見、その後さらに継続して寄せられた提案(現状分析と課題提起、会議への期待等々)について検討する第1回目の会議とする。

・次回「草の根会議」は10月25日午後2時半~5時半まで、法政大学(市ヶ谷キャンパス)で行う(会場がとれなければ立田氏に文科省ビルの会議室を手配していただく)。

・10月1日午前10時~12時の意見交換会のあと、そこでの会議の様子も踏まえて、1時間ほど、次回リ - ジョン会議参加者間の調整や次回「草の根会議」にむけて、「草の根会議」運営委員会を行う。この日は事務局の荒井が参加できないので、**谷氏**(日本公民館学会)がまとめ役となって行き、結果を事務局をつうじて、または直接に呼びかけ団体に伝える。

・ASPBAE に依頼して、インドとフィリピンの CSO レポ - トを入手してもらう(**三宅氏**担

当)

- ・ 政府代表に市民社会組織を入れていくことについて

前述のように、ユネスコ会議規則を再度確認し、政府が納得するような説明を用意しておく必要があるかもしれない。

6 次回の日程と会場

(1) 第2回「草の根会議」

10月25日(土)午後2時半~5時半

内容は ・10月1日意見交換会の様子

・リ-ジョン会議報告

・CSO レポ-ト企画会議

案内は、早めに周知する必要から、会場が確定しだい、まず第1弾として作成し、呼びかけ団体等に活用できるファイルを配布し、ホ-ムペ-ジにも掲示する。なお、その後10月1日あるいはその後の企画会議を踏まえて、より詳細な確定した案内を再度作成する(荒井担当)

(2) 第2回「草の根会議」のための企画準備会(呼びかけ団体)

前述のように10月1日意見交換会後の会議が次回準備のための会議第1弾となりますが、1時間と短いこと、またリ-ジョン会議を経て、企画内容を練り直す必要があることなどから、可能ならもう一回企画準備会というか運営委員会のようなものを開いてはどうか、あるいはeメールで企画内容・運営方法を練る、バ-チャル会議を行ってはどうかと思いますが、いかがでしょうか。